

令和元年6月10日現在

機関番号：12602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H06781

研究課題名(和文) 幼児の社会-情緒的問題のスクリーニング尺度-日本語版BITSEA の標準化

研究課題名(英文) Standardization of the Japanese version of the Brief Infant-Toddler Social and Emotional Assessment

研究代表者

矢郷 哲志 (Yago, Satoshi)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教

研究者番号：00778243

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1歳から3歳未満の幼児の社会-情緒、行動上の問題のスクリーニング尺度である日本語版Brief Infant-Toddler Social and Emotional Assessment (BITSEA)の臨床応用を目指して、日本語版BITSEAの信頼性・妥当性の検討、標準得点・カットオフ値の設定に取り組んだ。無作為抽出によって得られたデータを二次的に分析し、尺度の内的整合性、再テスト法、評定者間信頼性、既存尺度(CBCL2/3及びPARS)との併存妥当性を検討し、日本語版BITSEAが十分な信頼性・妥当性を有する尺度であることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、発達障害や「気になる」子どもの問題は憂慮すべき問題となっている。本研究において、信頼性・妥当性が検証された日本語版BITSEAが今後、乳幼児健診、家庭訪問、小児科クリニックなどの臨床現場で幅広く活用されることで、社会-情緒、行動上の問題を有する子どもの早期発見・早期支援に繋がり、問題行動の増悪・二次障害の予防、養育者の育児不安・ストレスの軽減、親子の安定したアタッチメントの形成、更には児童虐待の予防に寄与することが期待される。

研究成果の概要(英文)：For the clinical application of the Japanese version of the Brief Infant-Toddler Social and Emotional Assessment (J-BITSEA), a screening tool of the social-emotional and behavioral problems of children aged 12-36 months, we aimed to examine the psychometric properties of the J-BITSEA. We conducted secondary analysis of the data obtained on random sampling and estimated internal consistency, test-retest reliability, inter-rater reliability, and concurrent validity of the J-BITSEA using Child Behavior Check List 2/3 and Pervasive Developmental Disorders Autism Society Japan Rating Scale (PARS). The result suggested that the reliability and validity of the J-BITSEA, as a screening tool, were adequate.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：小児看護学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 近年、発達障害の子どもは増加傾向にあり、支援を要する子どもを早期に発見し、適宜適切な支援に繋げることの重要性が増している。更に、知的な面での顕著な遅れはないものの、「他児とのトラブルが多い」「注意が逸れやすい」といった「気になる」子どもの増加も憂慮すべき問題である。こうした問題の萌芽は、心理社会的な発達が最も著しい速度で進行する乳幼児期において、多動、攻撃性、食事や睡眠の問題などとして既に出現している。しかしながら、このような行動は典型的な発達の一部としても見られるものであり、低年齢であればあるほど介入の必要性の判断が難しい。臨床上問題となるような社会情動的、行動上の問題の早期発見・早期支援が遅れることで、子どもの問題行動は増悪し、不登校や引きこもりといった二次障害を引き起こすとともに、そういった子どもに特有の「育てにくさ」から、親子の関係性の阻害や児童虐待の誘因になることも考えられる。
- (2) Brief Infant-Toddler Social and Emotional Assessment (BITSEA)¹⁾は、米国で開発された Infant-Toddler Social and Emotional Assessment (ITSEA)²⁾の簡易版であり、1歳から3歳未満の幼児の社会情動的/行動上の問題を評定することを目的としたスクリーニング尺度である。外在化問題、内在化問題などを扱う問題領域と、注意力や共感性などを扱う能力領域の2領域によって構成されている。得点がカットオフ値を超える場合には、更なる追加のアセスメントや介入支援の必要性が示唆される。また、質問項目の中には自閉症スペクトラム障害 (ASD) の子どもに特徴的な行動について問う項目が含まれており、ASD をスクリーニングする上で優れた感度と特異度が報告されている。BITSEA は米国を初めとして、フィンランド、トルコ、オランダ、フランスなどの欧米諸国で幅広く活用されており、わが国の臨床現場においても有用な尺度であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、1歳から3歳未満の幼児の社会情動的/行動上の問題を有する子どものスクリーニング尺度である日本語版 BITSEA の信頼性・妥当性の検討、標準得点・カットオフ値の設定を行い、日本語版 BITSEA を我が国の臨床現場で広く活用可能な尺度として確立することを目指すものである。日本語版 BITSEA の信頼性・妥当性の検討、標準得点の設定においては、先行研究で得られたデータを二次的に分析することで行う。また日本語版 BITSEA のカットオフ値の検討にあたっては、新たに自閉症スペクトラム障害群 (ASD 群)、グレーゾーン群、コントロール群のデータを収集し、3群の得点を比較することで行う。

3. 研究の方法

(1) 日本語版 BITSEA の信頼性、妥当性の検討

先行研究^{3,4)}で得られた日本語版 ITSEA のデータから、日本語版 BITSEA に含まれる 42 項目のデータを抽出し二次的な分析を行った。分析内容は、日本人の標準サンプルにおける日本語版 BITSEA の平均値、標準偏差の算出、日本語版 BITSEA の得点の性差、月齢差、原版の標準化サンプルの得点との差の検討、信頼性の検討 (内的整合性、テスト-再テスト法、評定者間信頼性)、子どもの行動チェックリスト 2/3 (CBCL2/3) 及び広汎性発達障害日本自閉症協会評価尺度 (PARS) との併存妥当性の検討であった。

(2) 日本語版 BITSEA のカットオフ値の検討

保育園、小児科クリニック、児童精神科クリニックに通院する 1歳から3歳未満の子どもとその養育者を対象として、ASD の診断を受けている子どもとその養育者 (ASD 群)、発達障害の診断は受けていないものの社会性、情緒、行動上の問題が強く疑われる子どもとその養育者 (グレーゾーン群)、これまで乳幼児健診等で発達の問題を指摘されたことのない子どもとその養育者 (コントロール群) の 3 群に対し、日本語版 ITSEA 及び新版 K 式発達検査 2001 を実施した。得られた日本語版 ITSEA のデータから日本語版 BITSEA の項目を抽出し、3 群の得点を比較した。

(3) 倫理的配慮

研究は事前に所属機関の倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。研究の目的・方法、試料等の保管、予想される結果 (利益・不利益)、研究協力の任意性と撤回の自由、個人情報の保護、研究成果の公表、そして費用について、文書と口頭で説明し紙面に同意を得た。知り得た情報は研究目的以外には使用せず、個人が特定されないことがないようにデータは全て ID 番号で匿名化して処理し、守秘義務に配慮した。

4. 研究成果

(1) 日本語版 BITSEA の信頼性の検討

A 県内に居住する 1歳から3歳未満の幼児とその養育者 1500 名を層化二段抽出法により住民基本台帳から無作為に抽出した上で質問紙を配布した。回答が得られた 659 名のうち (回収率 43.93%)、欠損値のみられた 81 名を除外し、578 名のデータを二次分析の対象とした (有効回答率 87.71%)。結果から、日本語版 BITSEA の得点は、問題領域においては男児の得点が、能力領域においては女児の得点が有意に高く、有意な性差が認められた ($p < .01$)。また、2 領域ともに月齢による得点の差異が示され ($p < .05$)、これらの結果は、原版 BITSEA における知見と

も一貫性があった。日本語版 BITSEA における Cronbach の 係数は問題領域、能力領域ともに 0.7 以上、テスト - 再テスト法における級内相関係数(ICC)は 2 領域ともに 0.8 以上であった。夫婦を対象とした評定者間一致率では、能力領域では ICC が 0.6 を上回ったが、問題領域では 0.4 を下回った。

(2) 日本語版 BITSEA の妥当性の検討

日本語版 BITSEA の併存妥当性を検討する外的基準として、標準化されたアセスメントツールとして我が国で幅広く活用されている CBCL2/3 及び PARS を用いて、尺度間の相関係数を算出した。その結果、CBCL2/3 の内向尺度得点、外向尺度得点は、日本語版 BITSEA の問題領域の得点と有意な正の相関が認められた($p < .01$)。また、PARS の得点は、日本語版 BITSEA の問題領域の得点と有意な正の相関が、能力領域の得点と有意な負の相関が認められた($p < .01$)。また、PARS の得点がカットオフ値を超える群は、カットオフ値未満の群と比較して、問題領域の得点が有意に高く、能力領域の得点が有意に低いことが明らかになった($p < .01$)。

(3) 日本語版 BITSEA のカットオフ値の検討

日本語版 BITSEA のカットオフ値を検討することを目的として、ASD 群 28 名(男児 19 名、女児 9 名)、グレーゾーン群 23 名(男児 12 名、女児 11 名)、コントロール群 49 名(男児 24 名、女児 25 名)のデータを収集した。3 群の得点を比較したところ、ASD 群の能力領域の得点は、対照群と比較して有意に低かった($p < .01$)。一方で、問題領域の得点は、3 群間で有意な差異は示されなかった。また、ASD 群及びグレーゾーン群を臨床群として、臨床群と対照群の 2 群間で得点を比較したところ、3 群間の比較と同様に、臨床群の能力領域の得点は、対照群と比較して有意に低いことが明らかとなった($p < .01$)。しかしながら、問題領域においては有意な差異は認められなかった。

(4) 今後の展望

本研究の結果から、日本語版 BITSEA が社会-情緒、行動上の問題を有する幼児のスクリーニング尺度として十分な信頼性と妥当性を有することが示唆された。また、得点の有意な性差及び月齢差が認められたことから、日本語版 BITSEA のカットオフ値については、原版と同様に、性別毎(男児・女児)月齢区分毎(12-17 か月、18-23 か月、24-29 か月、30-35 か月)に設定する必要があることが示唆された。しかし、問題領域の得点において、臨床群と対照群との間に有意な差異が認められなかったことは、サンプル数の不足が一要因として考えられ、精度の高い適切なカットオフ値の設定については、更なる検討が必要だと考えられる。また、本研究の結果は、日本語版 ITSEA を用いて収集されたデータの二次分析であることに限界がある。今後は、サンプル数の拡大を図るとともに、日本語版 BITSEA そのものを用いたデータの収集を検討する必要がある。

<引用文献>

- 1) Briggs-Gowan MJ, Carter AS. BITSEA brief infant-toddler social and emotional assessment examiner's manual. San Antonio, TX: Harcourt Assessment, Inc., 2006.
- 2) Carter AS, Briggs-Gowan MJ. Infant-toddler social and emotional assessment examiner's manual. San Antonio: Harcourt Assessment, Inc., 2006.
- 3) Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Takahide Omori. Gender, age, and cultural differences in the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment. Journal of Medical and Dental Sciences, 62: 91-101, 2015.
- 4) 河村秋. 乳幼児の社会・情緒的問題の評価尺度-日本語版 ITSEA の開発と信頼性・妥当性の検討-. お茶の水看護学雑誌, 8; 28-41, 2013.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 3 件)

Satoshi Yago, Motoko Okamitsu. Predictors of social-emotional and behavioral problems and competencies in early childhood in Japan, 16th WAIMH World Congress, 2018.

矢郷哲志, 岡光基子, 河村秋, 大森貴秀, 廣瀬たい子. 日本語版 Brief Infant Toddler Social and Emotional Assessment の開発, 乳幼児保健学会第 10 回学術集会, 2016.

Satoshi Yago, Motoko Okamitsu, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Noriko Okubo. Cultural differences in social-behavioral problems and competences between American and Japanese children, 15th WAIMH World Congress, 2016.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。